

発行元: 株式会社アークフラッシュ本部

東京都新宿区百人町2丁目26番9号

<http://www.arc-flash.co.jp>**アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は9年間インフルエンザの発症が報告されておられません。**< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

各々の企業は来るべきインフルエンザ蔓延に備えて従業員の人数×7日分のマスクは最低常備するようにしましょう！！安価な投資で従業員の命を守る責任を持ちましょう！！

アークフラッシュでは、台湾備蓄用のマスクを配布しております

新型インフルエンザ情報

川崎市は3日、いずれも同市在住の男性会社員(34)と妻(29)、同僚の男性会社員(34)について、新型インフルエンザ感染が確認されたと発表した。3人とも、留学先の米ニューヨークから一時帰国して1日に感染が確認された東京都内の女性(29)と、5月30日に友人の結婚式後の宴会で同席していた。東京都や千葉県によると、この宴会の出席者では他にも、墨田区の男性、中央区の男性、千葉県四街道市の女性、同県富里市の女性(いずれも29歳)の感染を確認している。このほか、ニューヨークから帰国した杉並区の女性(36)と、フィリピンから帰国した川崎市の男性(65)の感染も確認。日本の感染者は成田空港の検疫で見つかった8人を含め計406人になった。

東京都は2日、米国ニュージャージー州在住で5月31日に一時帰国した日本人女兒(4)について、新型インフルエンザ感染が確認されたと発表した。立川市内の病院に入院しているが、快方に向かっているという。また、留学先の米ニューヨークから一時帰国し、1日に感染が確認された都内の女性(29)を巡り、5月30日に友人の結婚式後の宴会で同席した男女計3人も感染が確認された。いずれも29歳で、墨田区の男性と中央区の男性、千葉県四街道市の女性。都内の感染者は計7人、千葉県の感染者は3人となった。四街道市の女性は千葉市立青葉病院の看護師だったため、同市は女性が濃厚接触した患者や看護師、家族13人の健康状態を調べている。

一方、埼玉県は2日、カナダに留学していた川島町に住む無職の女性(26)の新型インフルエンザ感染を確認したと発表した。埼玉での感染確認は3人目。女性は5月31日、カナダからエア・カナダ1便で成田空港に帰国。現在入院中だが、2日午後5時現在で38度弱の熱がある。女性の家族4人は女性が発熱してから外出しておらず、県は感染拡大の恐れはないとしている。

新型インフルエンザ感染が確認された洗足学園高校(川崎市)2年の女子生徒2人は21日、発熱が治まり快方に向かっている。2人とも帰国後は登校していないことから、感染を拡大させた危険性は低いとみられる。東京都や神奈川県、川崎市は学校などの休校や集会の自粛要請などはしておらず、冷静な対応を呼びかけている。2人はいずれも16歳で、川崎市と東京都八王子市在住。川崎市の生徒は21日午前7時35分現在、体温が36.6度となり、のどの痛みやせきも治まっている。八王子市の生徒も、20日夜には36度台後半まで下がり、21日朝も安定した状態。家族や同行した他の生徒4人と教諭の健康状態に異常はないという。一方、2人が米国で参加した「模擬国連」には、洗足学園高校以外にも東京都の3校、神奈川県と千葉県の各1校から生徒計10人と引率の教員計5人が参加していた。洗足学園の生徒とは別行動で、18日に別便で帰国。インフルエンザ感染を警戒し、各校とも帰国した生徒と教員を自宅待機させている。5校によると、15人には21日朝まで体調不良は確認されていないという。また厚生労働省は21日、機内で2人から半径約2メートルの範囲内の座席だった人など、濃厚接触者で入国したのは17人と発表。生徒と教諭計5人のほか、日本人は東京都の50代男性1人と50代女性2人。

世界保健機関(WHO、本部ジュネーブ)のケイジ・フクダ事務局長補代理は2日の会見で、新型インフルエンザの感染状況は「パンデミック(世界的大流行)」を意味する最高度の「フェーズ6」に接近しているとの見方を示した。感染は2日時点で64カ国1万8965人にのぼり、117人が死亡するなど勢いは衰えていない。WHOは、死者が相次いだメキシコや米国など米州以外で「地域社会での大流行」が起きているかを注意深く観察しているという。WHOによると、英国、スペイン、日本、チリ、オーストラリアで感染が拡大。カナダで3人が死亡、英スコットランド地方で2人が重症になった。アフリカ大陸でも感染が確認されるなど感染が南半球も含め地球規模で拡大を続けていることに、フクダ氏は強い懸念を示したとみられる。

新型インフルエンザの発生に便乗し、新薬開発への投資や治療薬の購入を持ちかける悪質商法が各地で目立ち始めた。投資商法や振り込め詐欺を応用するなど手口はさまざま。国民生活センター(東京都)は「再流行が予想される今秋にかけて、さらに巧妙化する恐れがある」として注意を呼びかけている。大阪府北部の主婦(60)宅に今月3日、1本の電話がかかった。「新型インフルエンザのワクチン開発のため、ダチョウの卵が必要になる。高騰する前にダチョウのオーナーになりませんか」。東京からかけているという男は社名を名乗らず、主婦が断るとすぐに切った。厚生労働省によると、新型インフルエンザのワクチンの製造はまだ始まっていない。季節性インフルエンザのワクチンを製造している北里研究所生物製剤研究所(埼玉県)は「ワクチンは鶏卵を使用しており、ダチョウの卵を使う可能性はない」と話す。また、同センターによると、振り込め詐欺に似た手口も全国で相次いでいる。「新型インフルエンザにかかった。金がいる」などと家族を装って金をだまし取ろうとする内容で、長野、栃木、新潟県などで確認された。

治療薬の購入を求める手口では、北海道網走市の70代女性宅に5月15日、「新型インフルエンザの薬がインターネットで人気。100錠8000円」などと、若い男の声で勧誘電話があった。「国立感染症研究所」をかたったウイルスメールが送りつけられる例も確認されているという。

喝 !!!

* 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部
笹川 透

03-5337-8860 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。